

JLC カロリメータ シャワーマクシマム測定器テストモジュール (案)

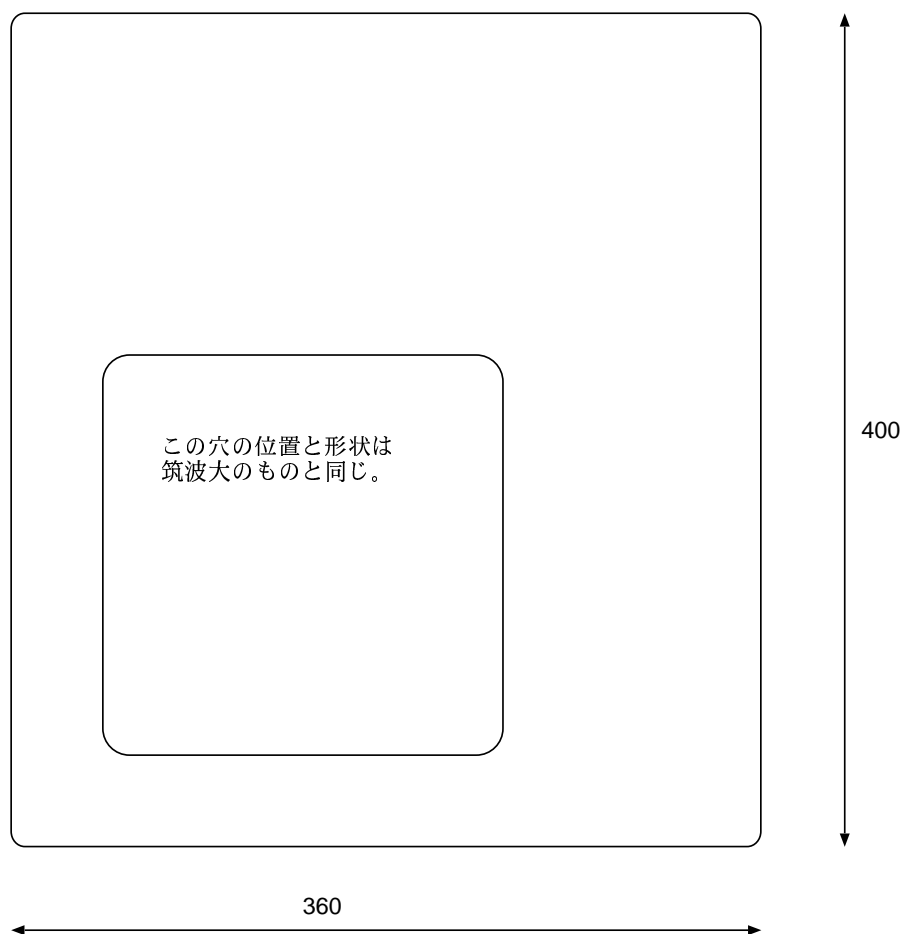
2002/06/17

神戸大学 川越清以

注意：以下の図面、すべてファイバーが右側で処理されるように描いてしまったが、実際には左側で処理されるべきである。実際に作る時は図面と左右対称になるように作って欲しい。

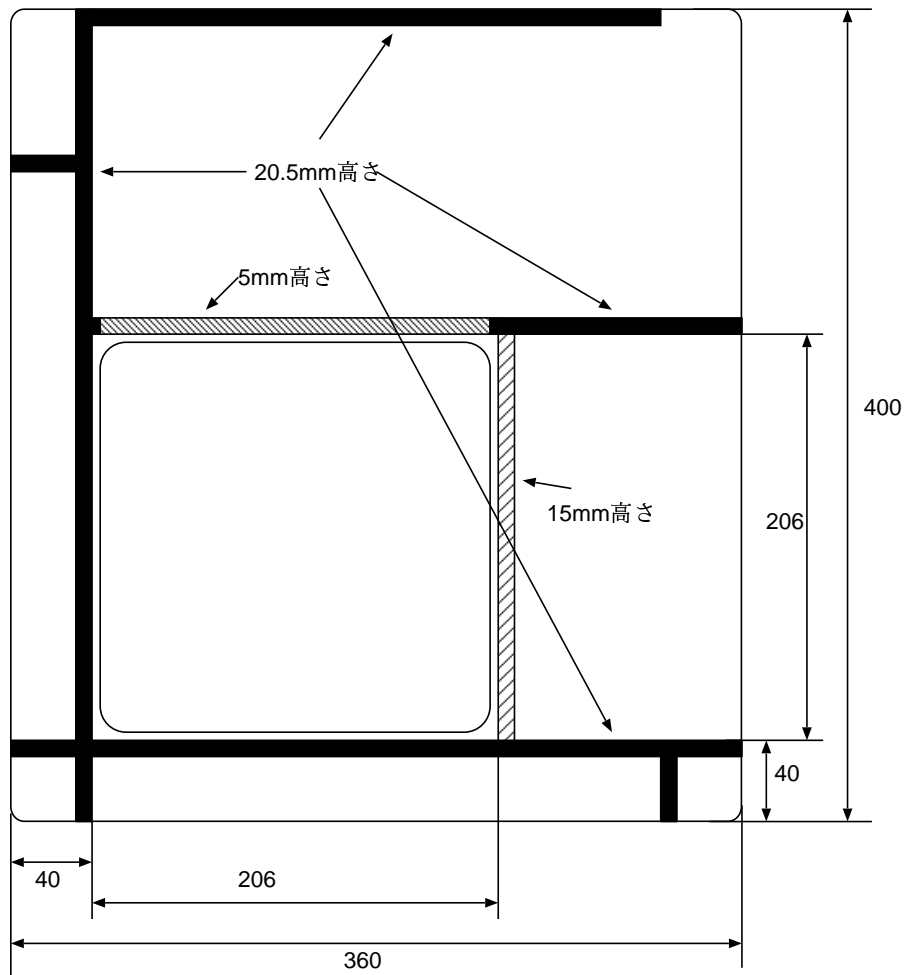
1 底板と上板

- 底板と上板の形状は同じ。仮に、360mm × 360mm にした。筑波大モジュールの大きさとほぼ同じ。完全に合わせた方がよいか??
- ネジ穴は描いていない。
- 測定器 (シンチレータ) 部分の穴の位置と形状は筑波大のものと同じ。
- 4隅の形状は、筑波大のものと同じにしてもよい (しなくてもよい)。
- 材質は 3mm 厚さのアルミ板程度で OK か?



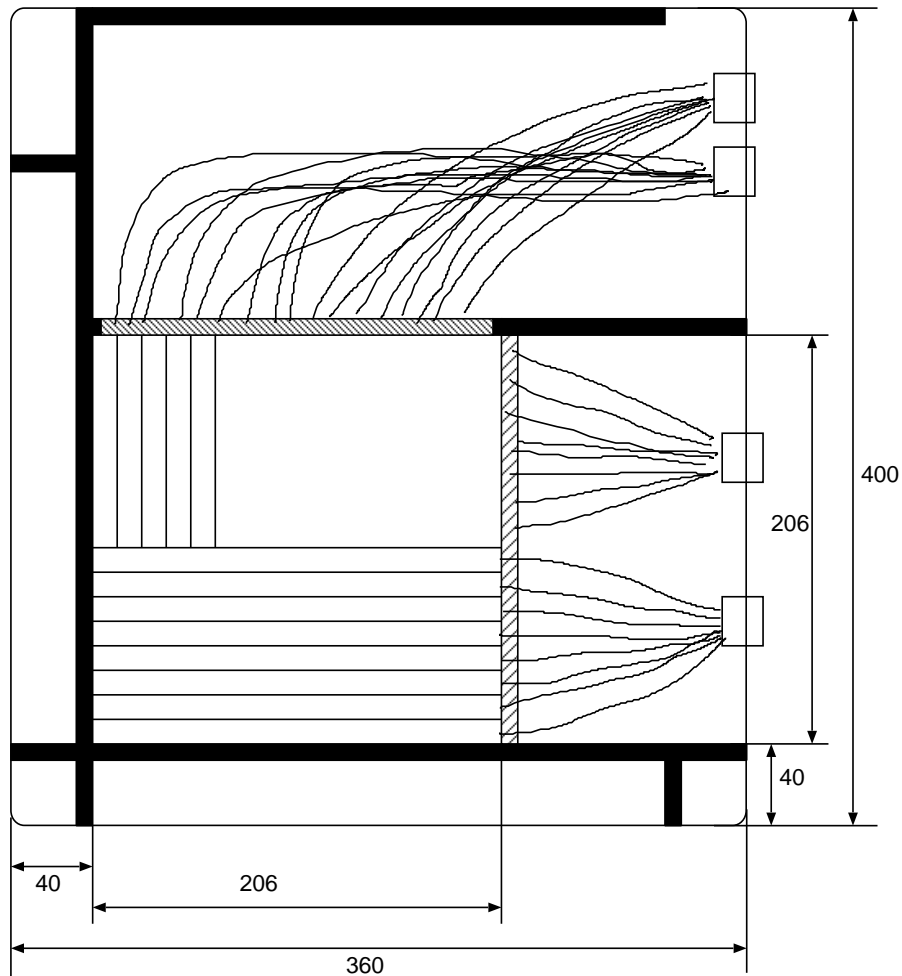
2 スペース

- 底板上にスペーサーを取りつける (ネジ止め)。
- スペーサーの高さは、ファイバーが通る部分を除いて 20.5mm。シンチの厚さ (10mm × 2) に PET 紙の厚さを考慮した。
- 上にファイバーが抜ける部分のスペーサーの高さは 5mm。このスペーサーの両側 3.5mm だけは高さ 20mm。
- 横にファイバーが抜ける部分のスペーサーの高さは 15mm。
- スペーサーは必ずしも連続している必要はなく、つぎはぎでもよい。



3 シンチストリップと光ファイバー

- シンチストリップの並べ方は筑波大のものと同じ。
- スペース-の内側に、まず縦方向のストリップ (10mm × 10mm × 200mm) が 20 本並ぶ。(図中のストリップの本数はいじ加減)。
- 次に、横方向のストリップが並ぶ。
- 光ファイバーは横方向のものはそのまま側面のコネクタへ。縦方向のものは 90 度曲げて側面のコネクタへ。(ファイバの図が汚くて済みません)。



4 上板の取り付け。

最後に上板を取りつける。スペース-にネジ止め。

5 その他

- スペーサ-やファイバコネクタ取り付け用のネジ穴を適宜あけて欲しい。
- ネジの頭はなるべく底板、上板の表面から突きでないようにしたい。
- 遮光、PMT ボックスは別途考える。